

2021年度決算報告

学校法人京都橘学園の2021年度決算は、2022年5月30日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、前年度と比較して10億9,897万円の増加となりました。収入の大部分は、大学・中高・こども園の学生生徒等納付金で、経常収入の79.4%を占め、特に大学の新学部設置に伴う収容定員の変更等による在籍者数増加の影響が大きく、学園全体として前年度比較で113.2%となっています。入学検定料が大半を占める手数料収入では、概ね変化なく、前年度比較で100.2%となりました。寄付金収入では、2020年度は新型コロナウイルス対策などに多くのご支援をいただいたため、前年度比較で83.1%と減額となりました。国及び京都府等から交付される補助金の事業活動収入に占める割合は14.1%で、2020年度から開始された修学支援新制度が含まれる経常費・運営費補助金は前年度対比で104.0%と増額になりました。また、こども園の補助金である施設型給付費は前年比100.5%と概ね変わらない結果となりました。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より12億7,177万円増加しました。人件費では、新学部設置による教職員配置、中学校・高等学校の教育力強化、こども園の保育体制強化等による採用増により前年度比較で114.2%、教育研究経費では、新教室・管理棟(アカデミックリンクス)に係わる費用や新学部設置に伴う経費などにより前年度比較で122.6%の9億233万円増額、管理経費では、広報費等の削減に伴い前年度比較で90.6%の8,771万円と減額となりました。

経常収支差額は前年より収入・支出とも増加し、前年度差額比率11.0%から下がり8.5%となりました。本年は新たに3学部を設置した初年度であるため、前年度と比較すると少し低い水準で落ち着くことになりました。教育研究活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では9億4,645万円を計上しております。

基本金組入については、第1号基本金において、「KYOTO TACHIBANA STADIUM」(グラウンド)の建築及び、既存棟改修工事をはじめとする施設設備面の充実による組入れを行い、組入総額合計22億6,511万円となりました。第3号基本金では、奨学基金への寄付に伴って増額となっております。これにより、2021年度は13億9,067万円の支出超過となり、繰越支出超過額は61億6,212万円となりました。

本学園では2015年から始まった第1次マスタープラン計画を点検・評価し、2019年度から第2次マスタープランをスタートさせました。このマスタープランのもと2021年度は、大学において、2021年度は3学部4学科の開設を行い、新たなグラウンドである「KYOTO TACHIBANA STADIUM」を竣工し、中学・高等学校においては、新教室棟を建設、教育環境の充実を図っております。たちばな大路こども園では、教育・保育の質向上に向けた保育士体制の整備・強化を行いました。

私立学園を取り巻く状況は、令和3年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、経営状況を示す事業活動収支差額比率は平均5.2%(令和2年度)となっております。本学園の事業活動収支差額比率は8.7%となっており、全国の大学法人平均より高い水準を保っております。現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であると考えております。